



東かがわ市議会議長

橋本 守 様

東かがわ市議会議員
(会派・個人・その他)

山口 大輔



行政視察等報告書

1	日 時	令和1年8月7日 から 令和1年8月8日	
2	参加者	山口大輔	
3	研修目的等	内 容	研修場所
		8/7 ペットの防災、同行避難について	京都動物愛護センター
		8/8 (株)地方議会総合研究所 主催 議会のシティズンシップ教育と広報 ----- 議会広報紙クリニック	京都テルサ
4	研修・調査内容	  <p>まちなこ支援「去勢手術の全額補助」</p> <p>京都方式の1例。性格が書かれている</p> <p>1日目は京都市会に行っている同行避難訓練実施及び動物愛護センターが実施している京都方式の話を中心に視察(写真)を行った。 2日目は議会の広報について、シティズンシップ教育の在り方やその報告、実際に作成している広報誌への指摘やアドバイスを受けた。(詳細については別紙のとおり)</p>	
5	研修成果	別紙のとおり (感想・今後の取り組み等)	
6	費 用	15,120 円	高速バス : ¥7,450- 宿泊費 : ¥7,670-

※領収書(交通費・宿泊費の明細が分かるもの)、研修資料を添付してください。

テーマ：ペットの防災、同行避難について
視察地：京都動物愛護センター
日時：2019年8月7日 14:00～16:00
説明者：生活衛生担当課長 西原和美様
京都動物愛護センター所長 田邊輝雄様

1. 研修・調査内容

これまで取り組んできた災害支援の1つ、同行避難について実際の避難訓練時に同行避難を取り入れている京都市を訪問し、これまでの経緯や課題を知ることで当市でも導入が可能かどうかの検討を行いたいと考えた。また殺処分ワースト1位を何度も記録している香川県にとって、少しでも殺処分の減少に努めるため、京都で行っているまちなこ支援の内容や、京都動物愛護センターで実施している譲渡を促進する京都方式の成果について学ぼうと考えた。

2. 研修成果

(a)同行避難について

阪神淡路大震災から始まり、ここ数年多くの災害が続いている。それを受け京都市では現在423ある避難所全てに各避難所単位の運営マニュアルを整備している。災害時ペットがいるため避難所に来なかった事による関連死や避難の遅延を少しでも防ぐため、市長を中心に2016年から2021年の5年間を目標として全ての避難所がペットの受け入れ可能ができるよう運営マニュアル化できるよう働きかけている。啓蒙のための一環として同行避難訓練の実施を地元のNPO法人と連携し実施を始めたところ、現在では独自に同行避難訓練を実施する避難所も増えてきている。

その結果2018年当時29か所だったが現在では100近くの避難所で対応できるようになってきている。またペット用の備蓄品はないが、避難スペースの確保やブルーシートで雨除けを作る等の資材の確認等がマニュアル化されている。(写真：訓練の様子)あわせて

簡単に導入できるような手引きを作成し、導入に向けての説明会などの働きかけも行っている。

実際に同行避難訓練を行うことで様々なものが見えてきた。実際にペットを連れてきたが所定の避難スペースに入ろうとしないペットがいたり、ペット用の防災グッズを準備してきていないなどの課題も見つかった。これについては飼い主の責任として正しく伝えていくと同時に事前のトレーニ



ングや避難グッズの用意など自助について意識してもらうきっかけとなった。また実際に避難訓練を行ったことで、災害時に同行避難受け入れをした避難所もあるなど一定の効果が出ているように思われる。

地域により受け入れについては温度差もあるため、今後も継続してマニュアル化や導入について実施していくと説明を受ける。

(b) まちねこ支援について

地域柄犬の捕獲は少ないが、猫、特に子猫の保護数が非常に多い。殺処分を防ぐための試みとして、野良猫の繁殖を防ぎ地域で見守る活動への取り組みとして、TNR (Trap/捕獲し, Neuter/不妊去勢手術を行い, Return/元の場所に戻す) まちねこ支援事業を実施している。内容としてはえさの置き場所の確保や糞尿の始末をはじめ、地元の理解を得るなどした数人で構成する団体が登録を行い、避妊去勢手術の全額補助や、捕獲のためのオリの貸与を行っている。現在市内で209団体が登録しているが、登録が3年更新のため、責任者が支援できなくなった、地域の猫が見えなくなった、飼い猫とした等の理由から、全てが実働しているわけではないとの説明を受ける。

年間100~200頭の手術を行っているが、獣医師を職員として雇用していることから、獣医師会の協力のもと、病院への委託ではなく職員自身が手術することで補助額の負担が抑えられている。(写真：センター内にある手術室)

現在は捕獲してもすでに手術済みの場合も見られだし、捕獲等数の削減も進んできている。



ミッションとして、全ての猫を誰かの飼い猫にという事があげられる。最初は地域で見守っているが、個人が飼いだすよう働きかけをすることも本制度の目的の1つである。

(c) 京都方式について

地域柄野犬が非常に少なく、子犬ではなく成犬や老犬が多いためなかなか譲渡につながらないケースが見られた。そこで動物愛護センター開設をきっかけに、開設準備段階から譲渡を進めるための柱として捕獲した犬の問題行動や性格を十分把握し、訓練や説明(写真：細かな性格が書かれている)を適切に実施すること

		犬名	フーさん
		犬種	ミニチュア プードル
		性別	オス
年齢	14歳	体重	8.8kg
収容日	H24.7.23	収容経過	飼主放棄
性格等	心を許した人には友好的ですが、警戒心が強く、人見知りします(他の犬もかなり苦手)。 現在、視力がほぼないこともあり、犬の扱いに慣れ、穏やかに時間をかけて向き合っていただけの方を募集します。		

ことで、ただ譲渡するだけではなく、譲渡がスムーズに行われ、譲渡犬の終生飼育につなげ